



喜多流自主公演

令和四年三月

令和4年3月27日(日)

12:00開演(11:00開場)

十四世喜多六平太記念能楽堂

前売開始: 令和4年1月6日(木) 午前10時~

料金: 全席指定(税込)

S席 9,000円 A席 8,000円 B席 7,000円

C席(1階後席) 6,500円 D席(2階席) 6,500円

学生席(2階席) 2,500円(25歳以下、要学生証提示)

- ・午前11時15分より、本舞台にて当日の演目の解説をいたします。お気軽にご参加ください。
- ・当日券をご用意できる場合は午前10時45分より発売いたします。

・ご自身の身近に新型コロナウイルス感染症に感染した方、またはその可能性のある方がいらっしゃるお客様、入管法に基づく入国制限の対象となっている地域から日本への入国後14日間経過していないお客様のご来場はお断りいたします。

・会場入り口前で手指の消毒、検温を実施させていただきます。体温が37.5℃以上の方、あるいは体調の悪い方のご来場はお断りさせていただきます。

主催: 公益財団法人十四世六平太記念財団

協力: 一般社団法人喜多流職分会

後援: 品川区、品川区教育委員会

助成: 文化庁文化芸術振興費補助金(舞台芸術創造活動活性化事業) 独立行政法人日本芸術文化振興会

俊成忠度 出雲 康雅
 籠太鼓 長島 茂
 須磨源氏 栗谷 充雄

チケット予約購入のご案内

インターネット

喜多能楽堂ホームページ <http://kita-noh.com/>
(24時間対応、要登録・無料)

【お受取り・お支払い】

① セブンイレブン

ご予約の際画面に表示された番号をレジにご提示の上チケットをお受取りください。お支払いは現金またはクレジットカードをご利用いただけます。ご予約の際クレジットカードで先にお支払いを済ませていただくことも可能です。

② 喜多能楽堂事務局 窓口

クレジットカードでお支払いの上(ホームページでのweb決済)、ご予約の際に画面に表示された番号を窓口にご提示いただき、チケットをお受取りください。現金でのお支払いはできません。

電話予約

喜多能楽堂事務局 TEL 03-3491-8813
(午前10:00~午後6:00 休館日あり)

【お受取り・お支払い】

① セブンイレブン

ご予約の際お伝えする番号をレジにご提示の上、チケットをお受取りください。お支払いは現金またはクレジットカードをご利用いただけます。

② 郵送

チケット代金と手数料を指定の銀行口座にお振込みください。入金確認後、簡易書留にてチケットをお届けいたします。

③ 喜多能楽堂事務局 窓口

ご予約の際お伝えした番号を窓口にご提示の上チケットをお受取りください。お支払いは現金のみとなります。

窓口

喜多能楽堂事務局 TEL 03-3491-8813
(午前10:00~午後6:00 休館日あり)

【お受取り・お支払い】

お支払いは現金のみとなります。

- ※お受取り・お支払い方法によって別途手数料がかかります。ご予約の際ご案内いたします。
- ※令和4年度公演の年間優待券は、令和4年1月6日(木) 午前10時より発売いたします。
- ※ご予約いただいたチケットのキャンセル、変更はできません。

ご注意

- ・開演中の途中入場はお断りいたします。・未就学児童のご入場はご遠慮ください。
- ・やむを得ない事情により出演者が変更になる場合がございます。
- ・許可なき写真・ビデオ撮影、及び録音はお断りいたします。
- ・客席での携帯電話やスマートフォンなど音や光の出る電子機器のご利用はお断りいたします。
- ・当面のあいだ水分補給を除き、飲食はご遠慮くださいますようお願いいたします。
- ・喜多能楽堂は全館禁煙です。屋外喫煙所をご利用ください。
- ・お席を離れる場合は貴重品、お手回り品にご注意ください。盗難・紛失についての責任は負いかねます。
- ・係員の指示に従っていただけない際には退場していただく場合がございます。

当能楽堂は、政府、公益社団法人全国公立文化施設協会などのガイドラインに基づき、感染拡大防止のための対策ガイドラインを定めています。なお、本ガイドラインの内容は、新型コロナウイルス感染の地域における動向や専門家の意見などを踏まえ、必要に応じて適宜改訂を行うものとさせていただきますので、ご来場の前には当能楽堂HPにてご確認ください。お客様におかれましても、ご自身の感染予防とともに周りのお客様にご配慮いただけますよう、何卒ご協力のほどお願い申し上げます。

新型コロナウイルス感染対策ガイドライン
<http://kita-noh.com/covid-19-guidelines/>

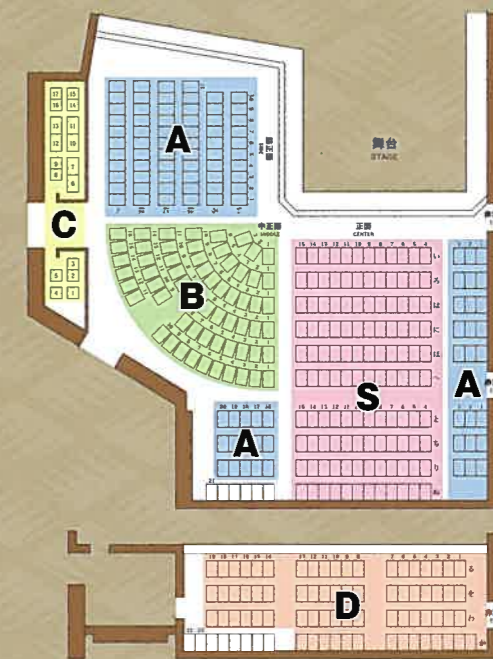


喜多流自主公演年間優待券

5枚綴り 35,000円

- ・ご希望のどの席種でもお選びいただけるお得な年間優待券です。
- ・お求めは喜多能楽堂事務局まで。各喜多流職分でも承ります。
- ・ご観能の際は別途、座席指定券をご予約ください。
 - ・追加料金はかかりません。
 - ・ご予約は、インターネット、電話、窓口で承ります。
 - ・年間優待券のみでの観能はできません。
 - ・ご入場の際は、年間優待券と座席指定券をご提示いただきます。
- ・本年度は延期になった前年度の振替公演です。ご利用は前年度(令和2年度)喜多流自主公演年間優待券をご利用ください。尚、前年度の予約済の指定席も有効です。
- ・青年能には使用できません。

自主公演観客席御案内



S席	9,000円	C席(1階後席)	6,500円
A席	8,000円	D席(2階席)	6,500円
B席	7,000円	学生席(2階席)	2,500円

会場案内図



JR線・東急目黒線・都営三田線・東京メトロ南北線ともに目黒駅より徒歩7分。目黒駅西口よりドレメ通りを直進。杉野学園体育館手前を左に入る。

※当能楽堂は駐車場施設がございませんので、お車でのご来場はご遠慮願います。

十四世喜多六平太記念能楽堂

〒141-0021 東京都品川区上大崎4-6-9
TEL: 03-3491-8813 FAX: 03-3491-8999
喜多能楽堂ホームページ <http://kita-noh.com/>

能

シテ連・太刀持 高林昌司
シテ連・藤原俊成 佐藤 陽
シテ・平忠度の霊 出雲康雅

俊成忠度

ワキ・岡部六弥太 工藤和哉

大鼓 原岡一之
小鼓 田邊恭資 笛 寺井久八郎

後見 友枝昭世
内田安信

金子龍晟 粟谷浩之
狩野祐一 金子敬一郎
地謡 佐藤寛泰 粟谷明生
友枝雄太郎 内田成信

狂言

茶壺

シテすば 三宅近成

アド・使いの者 三宅右矩
小アド・目代 高澤祐介

休憩(二十分)

能

シテ・関清次の妻 長島 茂

籠太鼓

ワキ・松浦某 殿田謙吉

大鼓 亀井洋佑
小鼓 曾和正博 笛 一噌隆之

後見 香川靖嗣
松井 彬

友枝雄太郎 友枝真也
谷 友矩 狩野了一
地謡 塩津圭介 中村邦生
狩野祐一 佐々木多門

休憩(十分)

仕舞

山姥

塩津哲生

塩津圭介
佐々木多門
大島政允
大島輝久

能

後シテ・光源氏の霊
前シテ・樵翁 粟谷充雄

須磨源氏

ワキ・藤原興範 御厨誠吾
ワキ連・興範の従者 野口能弘
ワキ連・興範の従者 野口琢弘

大鼓 大倉慶乃助 太鼓 大川典良
小鼓 住駒充彦 笛 栗林祐輔

後見 塩津哲生
谷 大作

金子龍晟 高林呻二
谷 友矩 友枝雄人
地謡 佐藤 陽 大村 定
高林昌司 大島輝久

附祝言

終了予定時刻 四時十分頃

俊成忠度(しゅんせいただのり)

一ノ谷の合戦で平忠度(薩摩守)は形勢不利になり陣を引きかけたところへ、岡部六弥太(武蔵の国の住人)が追いかけてきたので揉み合う。六弥太の郎党が忠度の右腕を肘から切り落とした時に忠度は最期だと思い、お経を唱えるが六弥太に背後から首を取られた。そして忠度の籠に「ゆき暮れて木のしたかげを宿とせば花や今宵のあるじならまし」と書かれた短冊を見つけた。六弥太はこの短冊を、忠度の和歌の師である藤原俊成に届ける。すると忠度の霊が現れ、自分の詠歌を「千載集」の入集へ懇望したのに「読み人知らず」として収めた恨みを藤原俊成に述べる。俊成と忠度は歌物語をかわすが、やがて忠度の気色が変わり、修羅道の責めに苦しむ様を見せるが、それも去ると春の暁とともに木の間に姿は消えた。
(約四十五分)

茶壺(ちやつば)

京都の梅ノ尾で茶を買い求めてきた西国の者が、途中で立ち寄った知人の家で酒をふるまわれ、酔って道に寝てしまう。そこへ通りかかったすつば(盗賊)が西国の者の茶壺に目をつけ、背負っていた荷物の縄の片方に自分の肩を入れ、背中合わせに横になる。目の覚めた西国の者が茶壺は自分の物だと争うところへ、所の裁人(代官)が現れて訳をたずねる。西国の者が茶の産地や商品明細について語れないながら説明をみると、すつばも盗み聞きして同じように答える。二人一緒に舞わせてみると、すつばは西国の者の所作を見ながらたどたどしく舞い納めるが、結局裁人は「論ずるものは中より取れ」とのことわざがあるといつて、茶壺を奪って逃げて行く。
(約二十五分)

籠太鼓(ろうたいこ)

九州松浦の何某は、領地内の住民の清次が口論の末に相手を殺めたので牢に入れたが清次は牢を破って逃げてしまう。これを聞いた松浦は、清次の妻を彼の身代わりに捕らえ牢に入れてしまう。清次の妻はあまりのことに狂乱の態を装う。松浦は不憫ながらも、夫の居所を明かしたなら解き放つてやると持ちかけるが、女は知っていたとて、みすみす夫を失うような供述ができようか、まして全く知らないものを白状しようがないと答える。松浦はそのいじらしさに、牢の戸を開いて「出よ」という。女は夫の身代わりゆえ出られぬ、この牢こそ夫の分身だと牢の中にくずれおちる。松浦はこのうえは夫婦ともに助けてやるというが、思慮深い彼女はさらに狂乱の態を装い、牢番が時を打つ鼓に打ち興ずる。松浦も哀れを催し、八幡神に誓って夫婦ともに助けると言う。そこで女ははじめて、夫は筑前の宰府の知り合いの所に身を寄せていると明かす。松浦は父の十三回忌に当たるゆえ、すべてを許そうと心を解くのであった。
(約六十分)

須磨源氏(すまげんじ)

日向の国宮崎の神官である藤原友頼は、伊勢神宮の参詣途中で須磨の浦にいる樵翁に出会う。樵翁は光源氏の旧跡にある若木の桜を眺めている。藤原友頼が光源氏について尋ねると、源氏の生涯を語り始め、自分は「源氏物語」の主人公の光源氏であると明かして消える。(中入)
旅覆する藤原友頼の前に在りし日の美しい気高い姿の光源氏が現れ、青海波の遊楽に引かれて舞うと、今は兜率天に住むが須磨はもとの住処であり、自分は衆生を助けるために天下つたのであると告げ、明け初めた春の空に姿を消して行った。
(約八十分)

令和四年 四月 自主公演番組予告

令和四年 四月二十四日(日) 正午始

十四世喜多六平太記念能楽堂

前売開始 令和四年二月一日(火) 午前十時

小袖曾我 佐藤 陽

西行桜 粟谷 明生

綾 鼓 長島 茂